

2026/02/06

小論文練習帳（主に、中学生・高校生向け）

出題：捧大地（ねんネコ塾™）

「カーリング石🏏の問題」を題材にした問題

中級編（★★★★☆）

氷上のチェスともいわれる「カーリング」というスポーツがある。冬季のオリンピックにも正式種目として採用されている。

このカーリングで使われる「ストーン（石）」は、事実上、スコットランドの特定の1つの島「アルサクレイグ島」産の石と決まっている¹。ところが、この石の産地の採用方法が続けると、いつかはカーリング用のストーンが無くなってしまわないだろうか²。

【準備運動】

〔その1〕

このカーリングで使用する石の産地を「特定の1か所のみ」とすることによる「スポーツという性質上のメリット」はどのようなものがあるのか。その理由とともに説明して下さい。

〔その2〕

このカーリングで使用する石の産地を「特定の1か所のみ」とすると、理論上は、いつかはカーリング用のストーンの採石ができなくなる。

これを避けるためにはどうすればよいか。

〔その3〕

仮に、採石を「特定の1か所のみ」ではなく、複数の場所から採石するとする。このようにした場合、「スポーツという性質上のデメリット」は、発生するだろうか。

¹ 注意的に書き記すが、実は意外なことに、世界カーリング連盟（WCF）が定める公式な競技規則（Rules of Curling）の中には、「石の産地（アルサクレイグ島産でなければならない等）」に関する規定は一切記述されていない。しかし、国際大会で求められる品質（硬度、吸水率、滑走性能）をクリアできる石の性質を考慮すると、やはり同島産のストーンがカーリング用としては最適らしい。

² 実は、一時期ネット上に、アルサクレイグ島の裏半分が採石され尽くされた「加工写真」が出回っていた。実際には、厳しい採石管理等がなされていて、カーリング用のストーンが無くなるような事は考えられないらしい。興味がある人は各自で調べて下さい。

【本題】

以上を踏まえて、カーリングストーンの採石・採用方法は、どのようにするのが「most better³」だろうか。①問題の所在を、**複数**、指摘して、②あなたの見解を、小論文の形式で、発表して下さい。

<♪梁上の「猫ちぐら」からの囁き♪（♪考えるヒント♪）>

仮に「サッカーボール」が凄く高価だと仮定してみてください。ボールメーカーは、世界中に**複数**社あります。そして、一昔前の W 杯で実際に起こった⁴様に、特定のメーカーのボールが凄く個性的であったことがあります⁵。

そうすると「どのような問題」が生じてくるでしょうか。

（問題文につき、以上）

<参考知識>

この問題に興味のある人は、「ビリヤード用の球」と「カーリング用の石」を対比させて調べてみてほしい。かつて、象牙はビリヤード用の球として最高級のものであったが、それが故に乱獲されてしまったという歴史があるらしい。

その後、象牙の性質を上回る「人工素材」が開発されていったという事実がある。

それに対して、カーリング用の石を人工的に製造するのには、まだ技術的な問題があり、実用化されていない。

興味がある人は、「寒冷地用のコンクリート」とも絡めて、各自で調べて頂きたい。

以 上

【解答方法：パソコンの全ての機能（生成 AI の使用を**除く**）を使用して解答して下さい。】

【推奨解答時間：1 2 0 分】

【解答文字数：書きたいだけ書いて下さい。】

【解答ができれば、身近な人に読んでもらって、感想を頂いて mite 下さい。自分だけでは気づかないことがみえてきますよ。】

³ この表現は、英文法的には正しくない可能性がある。正確には、英語の先生に質問して頂きたい。

⁴ 「本田圭佑 フリーキック」で検索！

⁵ 日本が、J リーグでの公式試合球としての採用も含めて、かなり早い段階から、当該大会の『W 杯公式球』を使用して慣れていたので、各国はこの W 杯公式球に慣れるのが遅れたことがある。